



# CSたより

5号

コミュニティ ・ スクール

風薫る季節となり、時折初夏を思わせる日差しを感じる季節となりました。新年度を迎え、学校生活も早、一月余りが経ちました。この間、うれしい知らせが届きました。今年度最初のCSたよりは、このうれしい知らせからお伝えしていきます。



## 令和5年度 県民ふるさと大賞を受賞！



皆さんは、富山県の誕生日を知っていますか。現在の富山県は、明治16年（1883年）5月9日に置県されました。そこで、富山県の誕生日は、5月9日となっています。それから130年。平成25年に、県では、この置県の日を「県民ふるさとの日」と決めました。「県民ふるさとの日」は、県民自身が、ふるさとの歴史、自然、風土、それらの中で培われた文化、産業等について理解を深め、魅力を再認識し、ふるさとへの誇りと愛着を育むことを目的とした日となっています。ちなみに、今年、富山県は140歳となります。

この「県民ふるさとの日」の設置を契機として、平成26年度に「県民ふるさと大賞」が設けられました。この「県民ふるさと大賞」は、ふるさとの魅力を再認識し、ふるさとへの誇りと愛着を育む「ふるさとづくり」に多大な貢献をしている教育機関、各種団体、企業又は個人を表彰する賞です。今年度は、朝日町保小中一貫教育校がこの「県民ふるさと大賞」を受賞することになりました。表彰式は、5月14日（日）に富山県教育文化会館で行われました。式には、笹原町長、加藤議会議長、木村教育長をはじめ、梅澤朝日中学校校長、竹内さみさと小学校校長、大森あさひ野小学校校長、町教育委員会水野事務局長が参列しました。

## 令和5年度「県民ふるさと大賞」表彰団体の功績概要

### ○朝日町保小中一貫教育校

朝日町では、学校と地域が一体となり郷土の自然、歴史等を学び親しむ「ふるさと学習」を進めてきた。「宮崎海岸でのヒスイ探し」や「わが町再発見事業」、「ふるさと体験バスツアー」など地域の方の協力を得ながら地元ではの多彩な体験活動を行ってきている。令和4年度からは小・中学校に町独自の教科「ふるさと科」を創設し、ふるさとを愛し地域の発展に貢献できる子どもの育成に取り組んでいる。

（県民ふるさとの日 記念式典資料より）



## 令和4年度 第3回学校運営協議会



3月20日(月)に、第3回学校運営協議会が朝日中学校で行われました。協議会では、昨年の4月からスタートした朝日町型保小中一貫教育とコミュニティ・スクール(CS)の取組について話し合いがなされました。報告は、さみさと小学校、あさひ野小学校、朝日中学校の順で進み、各委員からは、たくさんの意見が寄せられました。

### 成 果

#### ○保小中一貫教育が始まり、保育所、小学校、中学校では、互いの連携や交流が深まった。

子供たちは、異校種間の連携や交流の中で、互いに協働し学び合う喜びを学んでいた。

##### <園児・児童・生徒間の連携・交流>

- ・保小連携 (春、秋の生活科で保育所園児と交流)
- ・小小連携 (合同宿泊学習や町小学校合同記録会等、各種学校行事を通して2つの小学校が連携)
- ・小中連携 (入学説明会、体験入学等を通して、中学への不安を払拭し、期待をもたせる。)
- ・保小中連携 (合同音楽会に向けて、懸命に練習に励む中学生の姿を参観。一体感を生む。)
- ・小中間での乗り入れ授業 (音楽科・算数科・通級指導等で、担当教員が交流学习指導を行う。)

##### <教職員の研修>

- ・保育所との連携に関して、研修を深める。
- ・学んだ研修内容を広めるために、職員で共有する場をもつ。
- ・保育所との連携・交流について、接続カリキュラムの作成に取り組む。

#### ○ふるさと科の実践を進める上で、朝日町のよさを意識するようになった。

ふるさと科の学習は、「ふるさと朝日町」を心に深く留めるよい機会となった。令和4年度は、多くの地域指導者のもと、26件(地域学校協働本部が関わった数)の学習が行われた。子供にも、保護者にも、地域指導者にも喜ばれ充実したものになっていた。

学習後の発表会の中で、現地で講師の方からなかなか聞けない話や、学習する中で困ったことや、今後どのように学習していったらよいかといった質問にも答えていただき、大変よかったという声の子供たちから聞かれた。

#### ○研修の充実(国語科の県研究指定校・学び合いの学習推進・意欲を高める学習)

子供の学力定着と教員一人一人の技量向上を図ってきた。さみさと小学校は、国語科の県研究指定校となり、国語科を中心に研修を進めてきた。次年度も継続していくことになる。あさひ野小学校は、学び合い学習を中心に研修を進めてきた。充実した学び合い学習の姿が多く見られるようになってきた。朝日中学校では、一人一人の子供の学習への意欲を高めるように努力してきた。この目標をしっかり教職員と子供がもち、次年度も継続していく。

#### ○子供たちが発する挨拶、言葉づかい

校内では、朝の挨拶等良好な言葉づかいが多く見られる。友達等との人間関係を構築する上でも必要なことで、これからも指導していくことになる。

#### ○DX推進プロジェクトの効用

朝日町では、DX教育を進めている。今年度は、「よりよい朝日町を目指して、自分たちにできることは何か」をテーマに学習してきた。町では、子供たちにDX教育を通して問題解決能力を付けて

くれることを期待している。子供たちの様子を見ると、意欲的に学習する姿が見られ、うれしい思いになる。また、次も頑張っていこうという意欲をもつ子も多く見られた。このDX教育が将来の子供たちの力となることを期待して、この教育プロジェクトを続けていきたい。

#### ○交通安全教室の充実・保健に対する意識高揚・縦割り班活動の充実、人権週間等の取り組み

さまざまな方からの支援のもと、子供たちの交通安全意識を高めることができた。また、コロナ禍という状況もあり、手先の洗浄やうがいの励行等意識して実施する姿が見られた。このような中においても、縦割り班活動や人権週間の取り組み等から相手を思いやることの大切さを指導してきた。

#### ○教員の働き方改革の改善(校時運行の変更)

校時運行の変更で、勤務時間内に研修時間や職員会議の時間をしっかりとることができた。そのため、効率の良い学校運営を進めることができた。教員にとってもよい方向となっている。これからも働き方改革を進めていきたい。

#### ○学習習慣、学習規律の確立

朝の10分間、自主学習の時間をもっている。この学習習慣、学習規律を進めていくことで、子供たちの習慣や規律の確立を図ってきた。校内で、朝の時間の取り組みで、よい例を紹介し、広げる活動をしてきた。

#### ○親子での学習

親子で、ネット利用や保健に関する学習会を行った。ネット利用で学習したことは、よい学習機会となった。

#### ○14歳の挑戦(学習場所)

新たに加わった事業所もあり、学習の場所は、27か所となった。地域学校協働本部からの支援もあり実のある学習とすることができた。

#### ○全員が登頂することができた大鷲山登山

18名のサポーターのおかげで、無事行事を行うことができた。地域学校協働本部の深松推進員に連絡調整の支援をしていただいた。大変助かった。

#### ○朝日町の未来を考える学習

中学校では、他県出身者で地域おこし協力隊の方に来ていただき、子供たちに話をしていただいた。福島県と朝日町の魅力について話をしていただくという学習を組んだ。また、町役場や観光協会等を取材して、朝日町についてより深く考える場をもった。子供たちにとっては、よい機会となった。

## 課 題

#### ○メディア利用の問題

学習に対して楽しいと感じる子が少し少ない。学習に興味を抱く手立てを工夫したい。早寝早起きとメディア利用に関するルールについて、やや守られていない面がみられる。特にメディアの利用に関しては、家庭と連携して適切な利用になるように促進していく必要がある。

#### ○ふるさと科の内容周知の問題

ふるさと科について、よかったという声は多かったが、内容がよく分らないという声も聞かれた。ふるさと科の内容について広報していくことが大切。保護者にも地域住民にも内容を含めた周知が必要。

#### ○これからの研修の方向

学校間、異校種間で交流を深めながら、子供の発達について研修を深めていく必要がある。

#### ○連携のとり方

学校と推進員の間は、連携がうまくいったが、その後の講師との詳細な打ち合わせが、うまくできなかったことがあった。連携をとれる工夫を図っていきたい。

## ○大鷲登山での問題

登山では、子供の体力2極化（体力のある子、体力のない子）が見られた。下山途中から車への乗車がなければ、子供たちの行程時間には、4時間の時間差が生まれてしまう危険性があった。内容を見直す必要性がある。

## 対 策 (意見)

課題について話し合う中で、2つ課題が話し合いの中心となりました。

### ○メディア利用について

メディア利用（タブレット）の問題については、親子で問題を共有し、危機感をもつことが、第一に大切。そのためには、今までもやってきたように学校やPTAで親子での学習講座を継続していくことが必要。

→ 令和5年度（新年度）の学校行事の中で、親子でこの問題を考える事業が小中の学校で決められた。よりよい学習の場になればと思う。

### ○中学の登山（子供の体力の2極化）について

中学校の登山については、子供の体力（体力の2極化）を考えて、見直しを図ることが必要。

→ 令和5年度（新年度）の中学校の学校行事である大鷲山登山を笹川ふるさと歩道登山に変更。子供にとって新たな発見の場となればと思う。

## 町教委育委員会からの報告

朝日町学校保健会（医師の先生方も参加）の協議を受けて

- ・コロナが終息する中で、4月からのマスク着用については個人の判断にまかせる。
- ・歯磨きは、一斉の歯磨きに切り替えて再開する。
- ・フッ素のうがい（フッ化物洗口）は、5月の連休明けに、5類相当に引き下げになった時点で、従来どおり再開する。
- ・給食中の黙食は、従来の楽しい形にする。
- ・手指等の消毒、タブレット端末による健康観察は、引き続き行う。

※ 参加した医師からは「4月以降でもコロナに感染する可能性がある。今まで実践してきた手指の消毒や換気等の基本的な感染対策は怠らないように。」という意見をいただく。

熱心な協議が行われた後、令和5年度の学校運営の基本方針が各校から提案され、了承を受けました。令和5年度の学校運営協議会の開催予定は、7月下旬、11月下旬、3月下旬の3回となります。



次回からは、ふるさと科として行われている学習についてお知らせしていきます。子供たちの笑顔と嬉しい声を皆様にお届けできればと考えています。

地域学校協働本部（朝日町教育センター内）

電話：090-7180-9179

FAX：(0765)83-0279

担当 山崎

Email：asahi.chiikigakkoukyoudouhonbu@gmail.com